岐阜農林事務所の普及活動状況

令和２年１２月２５日

今月の重点活動

■加工業務用ほうれんそう（各務原市）収穫作業効率化への挑戦！

【ほうれんそう収穫機】

各務原市では昨年から、加工業務用ほうれんそうの栽培に取り組んでいる。９月下旬に 40a 播種が行われ、12 月７日から収穫が始まった。今年は天候に恵まれたこと、昨年の教訓を活かして栽培に取り組んだことで、昨年を上回る収量であった。

また、昨年は手刈り収穫で作業効率が悪かったため、今年はほうれんそう収穫機を利用して収穫を行い収穫作業もスムーズに進んだ。

農業普及課では、今年の実績をとりまとめ、来年の栽培に活かしていきたいと考えている。

（地域支援第二係・水川　誠）

多様な担い手づくり

■アドバイザー　GLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロック研修会開催

【寄せ植え研修風景】

12月10日、GLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロックの全体会及び研修会がＪＡぎふ曽我屋選果場研修室にて開催された。

全体会では、次年度役員の選出、新規会員の発掘及び会員相互の視察研修の開催方法について検討を行った。

研修会では、冬の寄せ植え作りについて学習し、会員が講師となり、作り方や花きの管理特性を学習した。

新型コロナの影響で組織的な活動が縮小しているため、会員の近況などの情報交換を行う貴重な機会となった。今後も自主的なアドバイザーの活動を支援していく。

（園芸産地支援第一係・福田　富幸）

売れるブランドづくり

■大豆　収穫作業が進む（瑞穂市、本巣市）

【大豆の収穫作業】

岐阜農林事務所管内では農業法人や大規模農家が小麦収穫跡の水田を活用して、大豆を栽培している。このうち、瑞穂市・本巣市では 31ha で「フクユタカ」を作付けしている。農業普及課では大豆栽培こよみの監修をすると共に、病害虫防除や刈取時期について個別指導を行ってきた。

今年は大豆の播種適期である７月上旬～下旬にかけて降雨が続いたため、播種作業が８月上旬に遅れたり、生育中にハスモンヨトウが多発するなど栽培管理の難しい年となったが、12 月３日から刈取作業が始まっており、概ね 12 月中に収穫を終える予定である。

今後農業普及課では収穫された大豆の単収や品質を把握し次年度の栽培体系やハスモンヨトウの対策を検討する。

（地域支援第三係・松本　政行）

■水稲　ＪＡぎふ特別栽培米生産推進協議会を開催

【推進協議会の様子】

12 月 23 日、ＪＡぎふ特別栽培米生産推進協議会が、ＪＡぎふアグリパークにおいて開催された。コロナ禍で、出席者を特別栽培米生産者の各地区役員、ＪＡぎふ担当者、パールライス担当者及び農業普及課の職員 17 名と絞った中での開催となった。

会議では、ＪＡぎふより今年の特別栽培米の生産量・反収や販売状況について、収量・集荷量は昨年よりやや少ないと報告された。農業普及課からは、令和３年産特別栽培米の作柄についてと令和２年産栽培暦の変更点について説明を行った。今年は、ジャンボタニシ、トビイロウンカ、カメムシ類、いもち病の発生が多く、高温障害による品質低下も見られ、収量・品質

ともにやや不良となったため、対策として薬剤等を変更した次年度の栽培暦について、また、省力のため全量基肥肥料を施肥体系に追加したことを説明した。これにより、年々減少している栽培面積に歯止めをかける予定である。

今後も、農業普及課として栽培研修会等を通じて、特別栽培米の生産安定を図っていく。

（地域支援第一係・小島　康平）

■ブロッコリー（羽島市）　ブロッコリー収穫機の実演

【収穫の様子】

12月17日に羽島市のブロッコリー生産者ほ場においてブロッコリー収穫機の実演会が行われた。

当日は、ほ場に雪が残る中での実演となったが、全農やＪＡなど関係者30名程度が参加し、ブロッコリーの収穫の様子を見学した。

収穫作業は運転手１名と後方での調製作業者２名に加え、収穫物を入れるコンテナの積み下ろし作業者１名の計４名で行われ、要した時間は10ａあたり２時間程度となった。収穫されたブロッコリーは出荷に向けて、追加の調製作業が必要である。

栽培面積の拡大のためには作業の効率化は欠かせないが、収穫機で一斉収穫を行うにはブロッコリーの生育を揃える必要があり、この点が機械化に向けた大きな課題であると感じた。

（地域支援第二係・水川　誠）

■祝だいこん　出荷目揃会を開催・積雪スタート

【収穫風景】

12月15日、ＪＡぎふ則武支店において、祝だいこんの出荷目揃会が開催された。今年は、播種後、ぐずついた天候により生育がやや遅れていたものの、11月からの高温により生育は全域的に根部肥大・葉の伸長とも平年程度まで回復した。今年産は昨年をやや上回る約60万本の出荷が見込まれる。農業普及課からは、今年の気象経過、生育調査結果の概要の情報提供と選別基準・出荷規格の厳守などについて指導を行った。

12月17日には寒波の影響により５cm程度の積雪があり、雪を除きながらの収穫始めとなった。祝だいこんは12月18日～27日までの期間限定で大阪市場に出荷され、関西のお正月には欠かせないお雑煮の具材として使用される。

（園芸産地支援第一係・横田　京子）

■かき　果宝柿選果支援

【果宝柿選果の様子】

12月10日～17日、ＪＡぎふ糸貫選果場において、袋かけ富有柿の出荷・選果がされ、あわせて高糖度（18度以上）で大玉（4L・5L）等の条件を満たした果宝柿の選果が行われた。

今年度は、長梅雨や夏期の高温少雨により果実は小玉傾向であったが、果実の外観は良好であり、糸貫選果場からは昨年度よりも多い58果が選果された（昨年度37果）。ブランド柿の一つとして浸透しつつあるが気象条件により選果数が増減することが課題となっている。

（園芸産地支援第二係・水野　文敬、小枝　俊仁）

■　加工キャベツ　収穫作業が始まる

【収穫作業の様子】

12 月２日から加工キャベツの収穫が始まった。

本巣管内では４生産者で 527a を栽培し、ＪＡぎふの半分弱の面積を占めている。定植期に当たる８月末～９月上旬以降、気温が高く推移したため生育が早く、玉の肥大が良好となってる。

生産者は出荷基準に基づき選別作業を丁寧に行い、コンテナに満杯までキャベツを詰めて出荷している。

収穫作業は２月まで続くが、農業普及課では栽培終了後の次作に向けて栽培管理などの指導を行っていく。

（地域支援第三係・山田　奈巳）